

「土砂災害について思ったこと」

山形県 南陽市立荻小学校 6年 ^{とのおか} 殿岡 ^{きゆみ} 櫻弓

私は今年の7月末にあった大雨の時に、土砂災害について様々なことを考えました。

私の家の前には、吉野川という川が流れています。ふだんは水が少なく、おだやかな流れですが、今回のように大雨が降り続くと数時間で、川があふれそうになりました。それに、私の家の後ろはがけになっています。私たちは、サイレンやひなん指示の放送を聞いて、がけくずれが起こるのではないかと、とても不安になりました。

そこで私たちは、1階のしん水と土砂崩れに備え、2階に垂直ひなんをすることにしました。私の家からひなん所に行くには必ず吉野川を渡らなければならず、かえって危険だと考えたからです。2次ひなん出来るように、1階にあったくつや大切な物を2階に運び、自分の衣服をリュックにまとめました。外の様子を見ていると、その間にも川の水がどんどん増え、あたりに「ゴトンゴトン」という変な音が鳴りひびいているのに気が付きました。

私は以前の防災教室で「土砂災害が起こる前には変な音が聞こえる」と学んでいたもので、その音を聞いて、とても怖くなりました。しかしそれは、川の中を大きな石や岩が流されている音だと祖父が教えてくれました。それに、土砂災害前のもう1つのサインである「変なおい」を感じなかったので、少し安心しました。

次の日、雨がやみましたが、川はまだすごい勢いで流れていました。がけくずれが起きて、山の間が茶色に見える所もありました。被害が広がらないように工事をしたり、土砂災害の対策をしたりすることの大切さを実感しました。

以前私は、吉野地区は土砂災害が起こりやすく、危ない地域なのだということを学びました。また、土砂災害を防ぐために、さまざまな対策をしていることも知りました。それは、がけくずれ防止で設置されたブロックや地すべり防止のためにポールを地下にうめこむなどといったものです。中でも私が1番関心を持ったのは、砂防ダムです。砂防ダムは、土砂災害が起こりそうなときに、被害を防いでくれます。吉野地区のように土砂災害の危険のある地域では、命を守るために必要な施設だと思いました。

また、音やおいについて、詳しく知りたかったので今まで学習したことをさらに調べました。山くずれが心配な時は物がくさったようなガスのにおいや土のにおいがします。土石流が起きる時はジェット機や雷のような音がします。サインを詳しく知ることによって災害に対する心がまえが出来るような気がしました。

今回の大雨や防災教室を通して、土砂災害は地球温暖化が原因ではないかと思いました。気温が上昇すると地面の温度だけではなく海水温も上昇します。海は広いので多くの水分が蒸発して、次々と雨雲ができます。こうしてゲリラ豪雨や台風によって水害や土砂災害がたくさん起きてしまうのではないかと考えました。

そこで、自分たちで出来る災害防止につながる取り組みを考えてみました。地球温暖化は二酸化炭素が原因だと知りました。森林伐採のほか、工場や車の排気ガスなどで増えているそうです。なので、私たちが身近な生活の中で、使わない部屋の電気や冷暖房などを消したり、ゴミを減らしたりして、地球にやさしい取り組みをすることが大切だと思います。

私が取り組みを続けても、きっとまた大雨が降ると思います。その時は経験を活かし、家族や地域の人と協力をして、冷静な判断をして乗り越えたいです。

そして、いつか地球温暖化がおさまって、水害や土砂災害の心配が減るようになってほしいと思いました。